

令和6年度 学校評価（自己評価結果）

重点目標	「自立や社会参加に向け必要な力を身に付け伸ばす」 1 新学習指導要領の改訂の趣旨に応じた各授業・自立活動の改善 2 ICT機器の効果的な活用と教職員の指導力向上 3 安全で安心な学校づくりと健康の保持・増進 4 地域及び関係諸機関との連携及び社会に開かれた教育課程の推進 5 知肢併設に向けた年間行事や教育課程等、教育環境の整備		
担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
小学部	対話的・体験的な活動を通じた社会性の伸長	・個別的教育支援計画を活用した実態把握と必要な力を主体的に身に付けられる指導計画の策定による授業展開 ・体験的な学習や ICT 機器の活用を通じた社会生活力の定着 ・自己表現力の育成と人との関わりを通じたコミュニケーション力や社会性の拡大	・指導計画をもとにそれぞれの児童の実態や周りとの関係性に応じた授業を展開したことで、主体的に活動する姿が多く見られた。 ・視覚聴覚に働きかけるデジタル的な関わりと直接体験的な活動を併用して展開することで、状況への対応や体の動かし方など生活に直接つながる経験を積むことができた。 ・縦割り活動での活動、校外学習、調理実習などで意思表示をして友達との関係を深める中でコミュニケーション力が高まった。
中学部	豊かな表現力と判断力の獲得を目指した授業実践	・つながりある学習活動の計画的な実施 ・各学年のテーマを踏まえた系統的かつ体験的な活動の展開 ・生徒や保護者に寄り添った安心して学習できる環境整備	・各教科の学びが互いに関係し合うことを意識し、体験学習や学習発表会などの学校行事では、社会的つながりや実社会での応用を視野に入れた学習活動を取り上げた。 ・系統性、発展性をもたせるために、段階的に学習内容を組み立てることや、地域の特色を生かした学びを計画・展開することを継続していきたい。 ・生徒の中には、感じた気持ちを表情や声で表現したり、自信をもって活動に取り組んだりする姿が見られるなど、表現力や判断力の向上が伺えた。
高等部	卒業後の自立や社会参加を見据えた資質や能力の育成	・デジタルとアナログの効果的な組み合わせによる学びの質の向上。DX ハイスクール事業化を見据えた環境整備と協力協働体制の構築。 ・学校生活や他校との交流を通じた調和的発達と豊かな心の育成 ・外部機関との連携・協働	・生徒の障害の実態、認知特性、習熟度に応じた ICT 機器、アプリケーション、手作り教材を効果的に組み合わせ活用することができた。主体的に学習に取り組む態度や友達と協力して学習を進める姿が見られ、学力や学習意欲の向上、豊かな感情の表出につながることができた。DX ハイスクール事業については説明会や体験会を実施した。 ・授業や訪問教育とのリモート交流、交流校との直接交流などを通じて、自分の意見をまとめ簡潔に話したり、他の意見を傾聴したり、協働して活動に取り組んだりする場面を積極的に設定した。自己肯定感感謝の心、寛容の精神などの豊かで健全な心の育成は少しずつできた。 ・進路指導、登校支援などの課題ごとに外部の支援を得てチームを作り解決に向けて連携協働することができた。
訪問教育	人との関わりを大切にした授業実践	・タブレット端末の活用した児童生徒同士や取り巻く人と関わる機会の拡大 ・意思や感情を促す授業内容の展開	・運動会は 20 名中 16 名が当日オンラインで参加、交流会は来校 5 名を含め 17 名が参加できた。双方向通信を授業に取り入れるようになってから最も高い参加率となった。また、母学級とはオンライン、来校を通じてほぼ全員が交流をしており、学習発表会にも違和感なく同学年の発表に参加することができた。遠足には 10 名参加し、参加できなかった児童も含め、100 円均一の商品を交換して事後のやり取りを楽しむ様子が見られた。双方向通信は、重度重複障害のある児童生徒にも「楽しい時間」であるという認識が浸透し始め、タブレット端末を見るだけで表情が和らぐなど、誰かと関わる心が心地よい時間となる傾向が訪問教育児童生徒全体に見受けられた。グループトークの内容についても、①部主事の合同授業、②卒業生（高 3 生徒）主導による合同授業など、充実を図った。
総務	知肢併置を見据えた業務内容の見直し	・儀式的行事の目的・目標の確認及び他との連携・調整を通じた計画立案と精選 ・学校備品（机、ロッカー等）の整理と管理 ・分掌業務の精選と整理	・儀式的行事の実施形態について、全校で集まる集会を行う分掌である教務部と生徒指導部と協力して、どのような実施形態がよいか、話し合うことができた。 職員机と更衣ロッカーのカギの有無を調査し、使いやすい形にリストを作り直すことができた。 ・総務が管理しているデータについて、経営案の業務内容別にフォルダを整理し、過去の古いデータを整理することができた。引継ぎ資料も同様の種類で整理し直すことができた。

教 務	学習指導要領の教科の視点を意識した目標・内容の設定と適切な学習評価の実施の推進	・令和８年度知肢併置を視野に入れた授業づくりに生かされる各計画等の様式の検討 ・教科の３観点による授業の目標・内容の設定の仕方と学習評価の方法の校内周知	・年間指導計画等においては、教科の視点や３観点を意識した目標内容の設定が定着しつつある。 ・個別の指導計画において、教科の視点や３観点を意識した目標・手だての設定や学習評価については課題が残る。今後、各授業における個々の評価を授業改善や学習の振り返りにつなげていけるとよい。
研 修	「学習者主体」の研究と研修の充実及び情報共有の推進	・研修履歴の記録を用いた主体的研究や研修の実施による「授業づくり」「授業改善」に対する教師間の対話の促進による教員の力量向上 ・目的や内容に応じた実施体制の整備	・研修履歴の記録を用いた主体的研究が２年目となり、eラーニングを含めて自主的に研修に参加する教員が昨年度と同様に増えてきた。知肢併置に向けて、知的障害に関する専門的な研修会の情報も提示していきたい。 ・対面式での研究が再びできるようになり、オンデマンドと併用してより良い研修効果が得られた。次年度もこの方法を推奨していきたい。また、経験者年数に応じて研修が選択ができるなど、研修内容を精選していきたい。
図 書	児童生徒が本を身近に感じられる図書室環境の整備	・図書行事や啓蒙活動を通じた図書室や読書への興味・関心の拡充 ・配架の工夫と読書意欲を高められる環境づくり ・児童生徒の興味・関心、実態に合わせた図書の選定	・校内読書週間では、保護者や高等部生徒による読み聞かせ活動を実施することができた。掲示内容についても好評だった。 ・新規購入した本を目立つ場所に配架することで多く利用された。 ・古い図書を修繕するとともに季節感のある本を展示したり、廊下の掲示板に掲示したりするなど、本を手に取りたくなる環境づくりに取り組んだ。
教育情報	正しく安全なICT機器の活用	・新しく整備されたICT機器に対する分かりやすい説明と配備 ・情報資産の正しい整備と管理	・パソコンの移行手続きや新しいパソコンの設定、操作に関するマニュアルを作成したり、分掌内で研修を行って情報部員全体で問題に対応したりすることで、スムーズに移行することができた。 ・「情報の分類表」を最新の状態に更新するには至らなかった。今後、更新を進めていく。
生徒指導	危機管理体制の確立と安全・安心な学校づくり	・防災教育の充実 ・防災・防犯の意識向上 ・素早く行動できる初動体制の整備 ・全員参加の引渡し訓練を実施し、保護者の防災意識の向上	・防災に関する各訓練では、消火訓練など積極的に参加する様子が見られた。シェイクアウト訓練等の警報が鳴った際には、回数を重ねるごとに実態に応じて身を守る姿勢をとることができた。 ・各教科や領域で、防災食や防災グッズなどを取り扱った内容の防災教育を行うことができた。 ・今年度の引き渡し訓練には保護者に積極的に参加していただくことができた。今後は事後学習の充実を図りたい。
進路指導	キャリア教育の充実 知的部門開設に向けた進路情報の収集及び行事等の計画立案	・進路だよりや掲示物を通じた情報発信 ・上級学部及び企業・事業所の見学、講話、体験等の設定 ・関係機関との連携 ・一宮東特支など他校の情報を参考にした検討会の設定	・進路説明会は、資料を基に小５から高３まで実施した。進路だよりは幅広い情報を掲載し、保護者の好評を得ている。体験的な活動は、各部で目標を立てて進め、職員向けの夏季研修（企業、事業所見学）は有意義なものとなった。PTA研修会では卒業生保護者や関係機関の協力を仰ぎ、在校生保護者が求める情報を提供することができた。高等部の進路では、納得した進路選択・決定を目的に、産業現場等における実習等を設定して進めることができた。高３生徒の移行支援会議も始まり、卒業後の生活に円滑に移行できるように調整を図りたい。 ・知肢併置に向けて各部で検討を要する活動や内容を検討した。他校の状況を参考に、関係者による話し合いの結果を知肢併置検討委員会に提案した。今後も話し合いが必要な内容は継続して検討していきたい。
保 健	職員間の連携をもとにした安全な教育環境の整備	・医療的ケア、緊急時についての共通理解をもとにした対応 ・ヒヤリハット事例の集約と分析、危機管理意識の高揚と持続化 ・感染症予防に関わるガイドラインの見直しと教育環境整備	・児童生徒の健康状態の共有に努めるだけでなく、授業や行事の前には、ケア実施計画を密に行い、安全な教育活動を提供できた。指導医や主治医とも相談連携することができた。 ・救急車要請研修や心肺蘇生法など、実技研修を充実させることができた。 ・安全点検や環境整備を実施し問題点を集約した。改善に努めたり衛生的な教育環境を整えたりすることができた。 ・誤嚥や窒息、熱中症にまつわる事例の情報提供をするとともに、安全な給食環境を整えるための提案を行ったり、熱中症対策としてWBGT測定器の活用を推し進めたりして、教育環境を整えることができた。

教育支援	校内支援及び地域支援の充実	・ニーズに応じた支援会議の設定とチームでの支援の在り方の検討 ・SC、SSW の更なる有効活用の検討 ・地域の学校が活用しやすい地域支援の在り方の検討	・本年度は支援会議の要請が保護者や相談支援員であること、支援者間での情報共有を目的にしたものが多かった。支援会議の重要性の理解が進んでいると感じた。 ・SC、SSW の派遣や電話相談を利用し、助言をもとに、生徒の心の状態の理解や支援等に役立てることができた。 ・地域の学校に「あゆみ相談」のリーフレットを配布し相談を受付けた。電話相談が中心であったが、地域の学校に通う保護者が来校しての相談も数件あった。
自立活動	自立活動の実践に関する情報や研修会の提案と指導の改善	・研修の充実と研修内容の共有 ・専門機関との連携についての職員周知 ・グループウェアを活用した情報発信	・夏季研修を中心に各研修の教員間の評価はおおむね良好であった。職員の希望に沿いながら、知肢併置に向けて新規開拓をしていく。 ・自立活動相談や専門機関との連携では、児童生徒の障害特性に合わせた指導・助言を得ることができた。利用者が限定されているため、更なる周知を図り、多くの児童生徒の自立活動に生かすようにしたい。 ・不定期ではあったが、豆知識を発信した。専門性という点で課題が残ったが、引き続き情報を発信し、職員からのフィードバックを得る機会を設けたい。
その他	知肢併設に向けた教育環境等の整備	・知肢併置に向けた検討委員会での検討	・一宮東特支やいなざわ特支等とやり取りをしながら、教育課程等の検討、分掌業務内容の確認、見直しを行った。 ・制服や体操服の選定、行事の取り組み方やスクールバスコースについて検討した。
総 合 評 価		外部（保護者）アンケートは、89名の保護者の方から回答をいただき、回収率は約70.1%であった。全21項目の質問のうち、おおむねよい（7割以上の評価）が17項目の結果であった。前年度と同様に「ICT機器を使った授業及び情報モラル授業の効果的実践」、「図書室を活用した読書活動」について「分からない」の回答が2割ほどあり、引き続き学校での具体的な取組を保護者に広く知らせていきたい。	